

聖隷淡路病院 地域医療研修プログラム（地域医療）

研修責任者 佐藤 倫明

研修期間 4週

プログラムの特徴

聖隷淡路病院は淡路島北部に位置しているが、この地域では漁業が主要産業となっており高齢化率^{※1}が高いのが特徴である。その様な地域性の中、当院では「地域に根ざした医療」を理念の一つに掲げ、健康診断^{※2}から、最後の看取りまで一連の医療を網羅して実施している。また2020年1月に地域包括ケア病床を40床から47床に増床して、在宅復帰に向けた支援を行うなど、地域のニーズに合った医療を展開し、病院・施設・在宅が有機的な連携をしている。研修期間は4週と短いですが、訪問診療を通じて地域特性を感じ取り、外来診療や入院患者の担当等を行うことで地域医療を実践することができる。

最後に、大規模病院では職員が多すぎて他部署との連携が取りにくい面もあるが、当院のような中小病院ではコミュニケーションを取りやすく、この機会にチーム医療を考える一助としていただければ幸いである。

※1. 淡路市内の人口のうち、65歳以上人口が39.4%を占める（令和2年2月調べ淡路市統計調査より）

※2. 地域住民の人間ドッグ等の健診事業

I. 対象となる疾患・病態

幅広い疾患を受け入れているが、当院で対応できない疾患・病態は高次機能病院などへ紹介している。入院患者では肺炎・心不全などが多く、緩和ケアや他院で急性期治療を終えた後のリハビリ目的の入院なども積極的に受け入れている。外来では高血圧・糖尿病・脂質異常症など生活習慣病や健診異常への対応をすることが多い。高齢者が多いことから、社会背景を考慮した診療を学ぶよい機会となると考えられる。

II. 研修到達目標

一般目標（GIO ;General Instruction Objective）

地域の特性や病院の役割を十分に理解し、地域医療を担う一員として実践する。

行動目標(SBOs ;Structural Behavior Objectives)

- 1) 地域の社会構造や疾病構造を把握する。
- 2) 担当患者の疾病のみならず社会的背景の理解にも努め、外来診療・入院診療を円滑に進めてゆくことができる。外来診療については~~平行研修方式にて~~、頻度の高い慢性疾患や継続受診患者の診察も行う。
- 3) 担当患者の疾病・病態が当院で完結できるか否かを適切に判断し、完結できない場合は高次機能病院などへきちんと紹介できる。
- 4) 近傍の病院・診療所・介護施設などとも連携し、全体として地域医療を担っているという意識を持ち、地域包括ケアの実情を正しく理解する。
- 5) 短期間であっても病院スタッフの一員であることを自覚し、他の医師やコメディカルとの連携を図りながらチーム医療を進めてゆくことができる。

Ⅲ. 方略（研修方法）

- 1) 上級医と相談しながら外来診療や慢性期・回復期を含む入院患者の担当を通じて、患者の社会的背景なども考慮に入れて~~た~~地域医療を実践してゆく。
- 2) 救急受診した患者に上級医とともに対応し、中小病院での救急対応のあり方を学ぶ。
- 3) 病棟カンファレンスやリハビリカンファレンスなどにも参加しチーム医療を実践してゆく。
- 4) 上級医に同伴して訪問診療を実施する。

Ⅳ. 評価

- ・ 指導医による医療場面での評価
- ・ 看護師による研修態度やコミュニケーション能力などの評価

Ⅴ. 専門医・認定医

日本内科学会総合内科専門医、日本内分泌学会功労評議員

日本外科学会指導医、日本外科学会認定医、日本消化器外科学会認定医、日本消化器病学会認定医

日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター

日本整形外科学会リウマチ医、日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医

日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会 脊椎内視鏡下手術・技術認定医

日本内視鏡外科学会 技術認定医、日本手外科学会 手外科専門医、日本皮膚科学会専門医

聖隷三方原病院 臨床研修プログラム

日本リハビリテーション医学会専門医、日本リハビリテーション医学会指導医

日本脳卒中学会専門医

VI. 研修医への提言

短期間であっても積極的な姿勢で地域医療に取り組み、また淡路での生活を楽しんでいただきたい。